

「竹は資源」学び楽しむ

環境保全教育研究所(長崎市)

地域住民らと協力した竹林整備活動や、敷地内の放置民家を改装し世代間交流の場として提供している長崎市の環境保全教育研究所(生月菜々子事務局長)。竹の間伐・伐採や炭窯体験、竹を素材に使った街中でのそめん流しなどを通じ、保護者や子どもたちに自然との触れ合い、里山保全の大切さを伝え続けている。

手原、深堀、戸石町などを中心に整備に取り組んでいる。

竹パウダーや

竹酢液

活動は2010年、生月さんが所属していた長崎総合科学大の学生らでつくるボランティアサークル「竹取物語」が、近隣住民に私有地の竹林整備を依頼されたことがきっかけで始まった。周辺の学童保育クラブの子どもたちや父兄、自治会にも協力を要請したところ快く

竹の成長は早く、4月に生えたものが6月には20メートルの高さになる。放置しておく周囲の木々に日差しが当たらず枯れ、生態系にも悪影響を及ぼすという。「長崎には放置民家も多く、床下

木を切り、竹なども生活に利用していました。人間と自然が与え合うことで共生のバランスを保ってきましたが、高齢化が進み里山を守るのが難しくなっています」「へんちくりん」は竹林の整備だけではなく、資源として竹の有効活用にも力を入れている。

めん流し」。学童保育の指導員に大人から子どもまで楽しめるイベントがしたいと依頼があり始まった。同市愛宕町の小学校周辺の自治会、子どもたちが協力し、手作業で40分の竹をつなぎ合わせ造ったという。人通りの少ない場所にもかかわらず、今年8月には約100人が訪れ舌鼓を打った。「子どもたちも興味を持ち楽しんでくれたので、夏の恒例イベントとして定着させたいです」と意気込む。

粉状にした竹を畑に土壌改良剤として混ぜ込み、土本来の自然の力を引き出す竹パウダー作り。竹には乳酸菌が含まれており、粉を袋に入れ密封することで中に菌が増殖するという。「農薬を使わなくても、おいしい野菜ができることを子どもたちに知ってほしいです」

同研究所の目標は経営も成り立つNPO法人になることだ。将来的にはさまざまな分野との連携を目指す。中でも福祉分野とは作業所などで竹炭を使った消臭剤などを商品化、販売し活動を強化したいという。

竹林整備で切り出した竹を炭窯で焼き、煙突から出る煙をフードに閉じ込め、液状にして竹酢液も作っている。液には防虫効果があり、自然素材として注目されている。竹炭は床下に敷くことで除湿剤としても役立つ。炭窯は手作り

「地元」に根差した活動で、人のつながりもより深めていきたいです。自然との共生など、楽しみながら学ぶことで里山保全への意識を高めていければ」と生月さん。ふるさとの風景、地域の人々をまだまだ元気にしていきたい、と心に誓う。

そめん流しも

大盛況

斜面が多い長崎の地形を利用し、昨夏から取り組んでいる「40分の竹をつなぎ合わせ、街中でのそめん流しに挑戦した」8月、長崎市

力を合わせ竹林整備に取り組む子どもたち=長崎市



40分の竹をつなぎ合わせ、街中でのそめん流しに挑戦した=8月、長崎市